チェスト！加治木!!

夢と高校生

卒業生代表　浦本崇志

私は、六年前までは隣の柁城小学校に通っていました。加治木高校生を見かけることも非常に多く、その度に私は「加治木高校生は大人っぽくてかっこいい。自分も早く高校生になりたい。」とあこがれを持っていました。そして時が経ち、とうとうその高校生活も終わろうとしています。

入学してから本当に色々ありました。とにかく新しいことをやってみようと思い、生まれて初めて学級の総務にもなったし、悩んだ末に五年続けたサッカーを辞めてバドミントン部に入部しました。二年になり、初めて生徒会長にもなりました。慣れないことばかりの高校生活は私が昔見ていた加治木高校生の姿とは、まるで違っていました。体ばかり成長して、中身は幼稚な小学生の頃と変わりません。でもそんな私がミスをする度に、「もっとこうしたらいいんじゃないか」とアドバイスをくれる友達がいました。目指していた高校生にはなれなかったけれど、私はどんな物にもかえがたいものをここで得ることができたと思います。彼らの存在が私を支え、私を育て、私がここで得た全てなのです。彼らに心からの感謝をおくりたいです。本当に、ありがとうございました。

ところで、在校生の皆さんは、将来の夢を持っていますか？ほとんどの人が私達と同じように大学受験を目指していると思います。受験勉強は、長くて辛いです。そんな時に皆さんの力となるのは、夢をかなえようとする力です。目標を持った人間の力はすさまじく、自分よりも学力や能力が上の人を軽々と超えていきます。しかし皆さんの中には、今は夢を持っていないという人もいると思います。正直なところ、私は夢がありませんでした。しかし、そこで焦ってはいけないのです。夢を見つけようと思って探しても、そう簡単に見つかるものではありません。予習復習や立て続けに行われる考査、部活や行事が盛りだくさんの加治木高校での生活の中で夢を見つけるのは、とても難しいことだと思います。だから一通り行事を終え、心にゆとりのある三年生になってから、勉強に励みつつ探せばいいと思います。それまでは、受験生であることを意識しながらも、行事などは思いきり楽しんでほしいと思います。

最後に、私たちの高校生活を支えてくれた全ての方々に感謝したいです。三年もの間、私たちの成長を見守って下さって本当にありがとうございました。

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE

在校生代表　笹峯桜

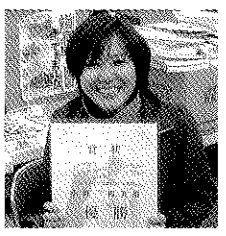
三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。先輩方に出会ってから、あっという間に時が過ぎて行きました。先輩方は勉強・部活・学校行事など、すべてにおいて一生懸命で、その姿から学んだことがたくさんありました。受験のプレッシャーが日々近づいてくる中で頑張ることは大変だったと思います。しかし、そんな中でも、クラスマッチや文化祭・体育祭などの学校行事では、私たち以上に積極的に参加されていました。特にクラスマッチや体育祭のときは、絶対に勝つという意気込みや、団結力の凄さが伝わるほど、三年生のエネルギーはすばらしいものでした。受験においては三年生の団結力はより結束力をましていたと思います。「ONE FOR ALL、ALL FOR ONE」という言葉がありますが、先輩方にはこの言葉がぴったりだと思いました。来年、再来年は私たちも受験を経験します。そのときは先輩方のように団結力を大切にして頑張りたいと思います。

卒業後はいろいろなことがあると思いますが、加治木高校で培った経験や人間美学を忘れずに頑張ってください。明朗で素晴らしい団結力を持つ先輩方ならきっと大丈夫です。先輩方のこれからのご活躍とご多幸をお祈りしています。

先輩方の卒業後は、私達が学校の顔となります。今まで先輩方が築き上げてこられた伝統をさらに素晴らしいものにできるように、頑張りたいと思います。そして、またいつか先輩方とお会いしたいです。それまでお元気でいてください。これまで本当にありがとうございました。

（担当　宮内志朗）

菜の花マラソン　小野裕美先生優勝！



2011年1月9日、「第30回いぶすき菜の花マラソン」が開催されました。距離は42・195キロメートル。参加者は満開の黄色い菜の花の中、アップダウンの激しい道のりを走ります。全出場者数1万7819人というこの大会で、事務室の小野裕美先生が、見事女子優勝を果たしました。今回は、その小野先生にインタビューをお願いしました。

Q　菜の花マラソンに出場しようと思ったきっかけは何ですか。

A　10年前、職場の人に誘われたのがきっかけです。

Q　普段練習するときは、どのくらいの距離を走るのですか。

A　練習できるときは、平日に約10キロ、土日に約20キロ走ります。夜に走るときは危険なので、ジムで走ります。

Q　マラソンで走っているときに「きつい」と思うことはありませんか。

A　しょっちゅうです。特に20キロあたりの中間地点が一番きついですね。ですが「ここからあと半分もある」と考えるのと、「あと半分しかない」と考えるのでは全然違います。心の持ち方、考え方が大切だと思います。

Q　ほんとにそうですねぇ…ところで、菜の花マラソンで優勝されたとき、どのような気持ちでしたか。

A　一緒に練習してきた人たちや、応援してくれた人たちへの感謝の気持ちが自然と生まれてきました。

Q　菜の花マラソンの魅力は何ですか。

A　沿道で応援してくれる人たちが多いことです。寒い中、全然知らない人たちが応援してくれるのはとてもうれしいです。

Q　最後に、加治木高校の生徒に向けてのメッセージをお願いします。

A　マラソンは感謝の気持ちを感じることのできるスポーツだと思っています。一緒に走ってくれる仲間、走る時間が持てること、丈夫な体に産んでくれた親にも感謝したくなります。私が感じているたくさんの感謝の気持ちを、ぜひ一度味わってみてもらいたいです。

◇今回のインタビューには、私たち加治木高校生が学ぶべきことがいろいろありました。特に、マラソン中につらくなったとき、その「つらさ」を乗り越えようとする姿勢、心の持ち方は参考になりました。これは、受験勉強やテスト勉強にも生かすことのできる大切なものだと思います。小野先生、ご協力ありがとうございました。そして、これからも頑張ってください。

（担当　長　優花　恒見　晴香）

雪のセンター試験

1月15日・16日

一月十五日、十六日は、センター試験でした。毎年、センター試験当日の天候は気になるものですが、今年は鹿児島では珍しい雪のセンター試験となりました。

ニュースなどでいわれるように、今年は大寒波の年です。この「寒波」とは、シベリア大陸にたまった冷たい空気が、まるで波のように押し寄せてくることから名付けられました。しかし、今年の寒波は、ラニーニャ現象と呼ばれるものも影響しています。ラニーニャ現象とは、ペルー沖などの東部太平洋赤道域の海面水温が、低くなるもので、発生すると東南アジア付近の海面水温を逆に上げ、その地域の大気の活動を活発化させるものです。その影響で、日本付近を流れる偏西風を南に蛇行させ、寒気が南下しやすい環境を作っているので、今季は例年よりも寒かったのです。

センター試験でも、この寒さと雪の影響で交通機関が乱れ、追試験を受ける人も多かったと聞いています。鹿児島大学で受験した本校の三年生も、しもやけになった人や、鼻水が止まらなくなった人がいたようです。センター試験のときは暖房が効かず、カイロがとても役立ったそうです。

センター試験の寒さ対策としては、試験室内でのコートの着用が認められています。座布団や、ひざ掛けは、監督者の許可があれば使用できます。また原則として、試験終了までは試験室から退出できません。トイレは試験前に済ましておきましょう。

今年はひどい寒波により鹿児島も大雪が降り、大変なセンター試験でした。みんなが喜んだ雪も、さすがに降りすぎると困ります。来年はどうなるか分かりませんが、雪が積もっても大丈夫なように、万全な用意をしておきましょう。

寒さに対する用意だけではなくて、試験に対する用意もしっかりしましょうね。

（担当　諏訪脇智美）

編集

加治木高校新聞委員会

印刷

㈲吉屋印刷

今回の注目記事

◇菜の花マラソン小野裕美先生優勝！
◇雪のセンター試験
◇一年生合同LHR
～〝加治木空襲〟を考える～
◇緊急！新燃岳噴火!!
◇青春プレイバック
～川良いたり先生の巻～

憧憬

先日、春の大相撲、大阪で行われる本場所が中止となった。六十五年も続いた本場所が中止となったのは、今回が初めてである。この中止によって日本相撲協会は、入場料などおよそ十三億円の損益となったという。それでも相撲協会が本場所を中止した原因は、最近メディアを騒がせている相撲の八百長事件である。裏でお金のやり取りがあった勝負を、私たちは見せられていたというわけだ。

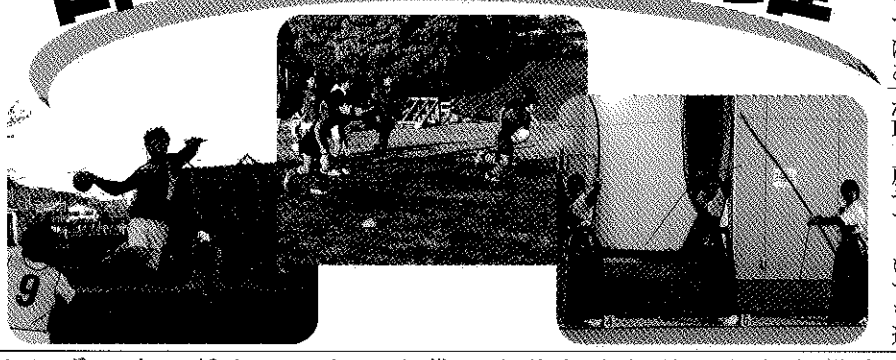
この事実が発覚した当初、あるアメリカの新聞記者がこのようなことを書いている。「日本は、サッカーが強いうえに人気がある。このような八百長などが起こる相撲よりも、いっそサッカーを国技にしたほうがよいのではないだろうか。」

確かに、最近相撲はこのような話題ばかりが続いている。それに対してサッカーは、先日のアジア大会優勝など朗報ばかりである。深夜にあった決勝戦は、大勢の人々が見ていて、大変盛り上がっていた。我が校の黒木校長先生も、御覧になったそうだ。サッカーを国技にとアメリカの人に言われるのも仕方のないことかもしれない。

しかし、日本の国技の一つは相撲である。勝負の勝ち負けがお金に左右されるなど、あってはならないことだ。日本の国技、日本の文化である相撲を、日本人である私たちは守らなければならないのである。そのためにも、力士たちには、日本が誇れるような勝負をしてほしいものだ。八百長などが今後二度と起こらないように、そして、相撲が早く復活するように祈るばかりである。

（担当　池田奈央）

部活動大活躍



二〇一〇年はサッカーのワールドカップやバンクーバーオリンピックで日本の選手が大活躍していましたが、加治木高校も負けていません。どの部活動もそれぞれすばらしい成績を残してきました。

今回は特に優秀な成績を残したラグビー部、ハンドボール部、水泳部、弓道部、そして文芸部に話を聞いてみました。

ラグビー部

主将　中園　大輔

「僕達、加治木高校ラグビー部は十月二十三日から開催された花園大会鹿児島予選で三位に入賞しました。進学校で三年生がいなくて部員数が十六人という少人数チームですが、他の高校の三年生の勢いに負けず準優勝まで上り詰めることができました。また、加治木高校ラグビー部が二十年ぶりに準優勝まで勝ち進んだということで、南日本新聞にも掲載されました。

今、僕達は神薗先生、黒原先生、松田先生のご指導のもと、五月にある最後の県大会に向けて日々練習に励んでいます。「ONE FOR ALL、ALL FOR ONE」を信条とし、部活と勉強の両立をしていきたいです。」

男子ハンドボール部

主将　中村　圭佑

「こんにちは。男子ハンドボール部です。十一月に行われた南九州大会本戦では三位という自分達も納得のいく成績を納めることができました。これは、先生方をはじめ、さったお陰だと思っていて、とても感謝しています。僕達は、他のチームに比べ、人数が少なかったり、練習環境もあまり良い状態ではありませんが、チームの絆、チームワークを大切にして日々部活に励んでいます。これからの目標は、県大会でベスト４以上に入ることです。そのために毎日の練習を大事にしていきたいと思います。これからも男子ハンドボール部をよろしくお願いします。」

水泳部

中村　春臣

「僕達水泳部は、少人数ながら末広杯という九州新人水泳大会に出場させていただきました。去年は福岡、今年は大分で行われました。

あの水泳部が出るくらいだから、大した大会ではないだろうと思った人も多いと思います。しかし、決してそんなことはありません。

確かに、標準タイムを突破すれば良いので、順位で争うよりは楽かもしれません。それでも、標準は甘くはありません。泳いでみたら分かると思います。僕達は小さい頃から競泳をしています。昔からの経験の積み重ねが各々の成績につながっていると思います。

県では上位に入る者も多いです。しかし、九州大会に行くと、よくて中位というのが現状です。明らかに力不足でした。僕達はもっと速くなりたいです。一人一人が自己ベストを出すことができればそれで十分ですが、いつか良い成績を残し、生徒や先生方全員に水泳部を認めてもらいます。難しいことかもしれませんが、僕達はそれぞれの残された時間で、より速くなれるように精一杯の努力をします。」

（担当　森井広圭）

弓道部

副主将　地福　栞菜

昨年は、部員全員で一丸となり支えあって一つの試合に臨んできた結果が、少しずつではあります。レベルの高い大会になってくると、ふとした瞬間に自信が無くなってしまうこともありましたが、選手同士でアドバイスを言い合い、選手以外の人からは励ましの言葉をかけていただくことで不安を打ち消すことができました。自分で自分が信じられなくても、周りからの冷静な意見を聞くと落ち着きが取り戻せて、いつも通りのプレーに戻れたことも今まで多々ありました。

全国での遠的大会では、部員の中から選手として四名だけが戦うこととなり、プレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、チーム内でお互いを励ましあって心地よい緊張感の中、試合に臨む事が出来ました。結果は三位でしたが、これに満足することなく今年行われる遠的大会でリベンジしたいと思っています。

九州大会では開催地が鹿児島ということもあり、選手以外の部員たちや県内に住んでいる大学生の先輩たちなどが激励に来てくださいました。その時改めて、自分たちはたくさんの人に支えられてこの場にいるのだなと強く感じました。試合が終わる度に顧問の先生から集合がかかり、その場でアドバイスや激励の言葉などをいただき、次の試合へと備えるという事を繰り返しました。そのアドバイスを上手く次につなげる事が出来た人やそうでない人など様々でしたが、一人一人が全力で試合に臨めました。しかし、男女共に本来の力を出し切れずベスト８で終わり、顧問共々大会終了後には涙する場面もありました。上村さんの個人二連覇をかけた試合では惜しくも決勝で敗れてしまい、今までの努力を知っているため部員一同悔し泣きをしました。

決して満足のいく結果ではありませんでしたが、たくさんの人々からの応援に応えるために、今まであと一歩足らず上位大会での優勝に繋がらなかった経験を糧にして、まずは三月にある全国大会に向けて、悔いの残らぬようにこれからも日々精進していきたいと思います。

文芸部

部長　谷口　仁実

まさか、加高新聞に私たち文芸部の記事が載るなんて思いもしませんでした。

文芸部は陰で暗躍している部活だったので、このような形で多くの人に文芸部の名が知られることは、部員一同恐悦至極に存じます。

さて、少なくとも生徒の半数程はきっと、「文芸部って何するの？」と思ったことでしょう。私自身も、同級生にそう聞かれて、何だか悲しくなった覚えがあります。私も、高校に入るまで文芸なんて知りませんでしたから、知らなくても仕方がないと思います。簡単に言うなら、文芸部とは小説、詩、短歌、俳句の４種類を自由に創作する部活です。と言っても、堅苦しいものではなく、小説はライトノベル寄りですし、何より毎回お互いの作品を楽しみにしています。

夏はうだるように暑く、冬は冷蔵庫のように寒い、こぢんまりとした部室で必死に制作した部誌が、コンクールで最優秀を受けたと聞いた時は、皆一様に「え、それ何の冗談ですか。」と半信半疑の状態でした。全国大会なんて出場できるなんて思わず、今も夢のようです。八月の大会なので残念ながら私たち現二年生は行けませんが、才能あふれる期待のニューフェースたちが多くを大会で学び、更に文芸部を盛り上げてくれることでしょう。

最後に、これを機に文芸部に興味を持っていただけた方はぜひ、文芸部誌を手に取ってみて下さい。今年もそろそろ制作する予定ですので、黒板にひっそり貼られた注文表を見つけたらぜひ。後日注文も全然構いません。

文章が苦手な人でも読んでいただけるよう、精進する次第ですので、今度とも文芸部を何卒よろしくお願いいたします。

（担当　上之原綾香）

一日遠行

今年度も本校の名物行事である一日遠行が行われました。

今回は遠行で一位になった伊藤宏輝君と下小牧利紗さんにインタビューを行いました。

Q　一位の感想は？

A（伊）去年一位になれなかった分うれしかったです。

（下）楽しかったし、二連覇できたこともうれしかった。足がつってしまいましたが、あきらめず頑張った甲斐がありました。

Q　走っているときどんなことを考えていましたか？

A（伊）特に何も考えていませんでした。

（下）歌っていました（笑）。いつも走るときは元気が出る曲・好きな曲を頭の中で流しています。

Q　毎日の練習の中で、遠行に向けて頑張ったことはありましたか？

A（伊）部活の練習を普段以上に頑張りました。

（下）同じペースで走る練習を行いました。ペースを保つように集中するのが大変でした。

Q　今回の遠行で得られたことはありましたか？

A（伊）忍耐力や精神力、そのほかいろいろなものを得ることができました。

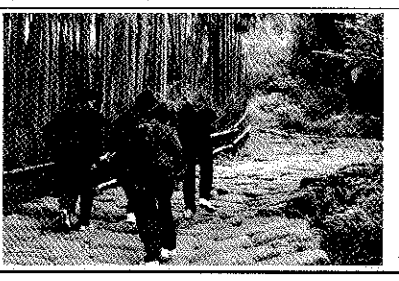
（下）諦めず最後まで全力を尽くすことです。今後生活していく中で大切なことを得られました。

Q　来年走る後輩たちに向けてアドバイスをお願いします。

A（伊）こんなに長い距離を走る機会なんてこの先あまりないと思うので、最後まで諦めず精一杯頑張ってください。

（下）一日遠行は大変ですが、得るものはとても大きいです。今後の力になると思うので、目標を持って妥協することなく臨んでください！

（担当　矢崎真太郎）



大阪・スキー・ショッピング 修学旅行

～スキーin長野～

十二月、私たち二年生は修学旅行にいきました。

初日はバスで移動しながら、東京の大学を車窓見学しました。みんな大学への意欲が高まったことでしょう。

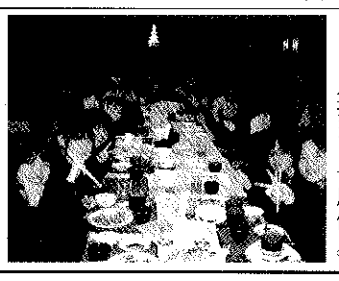
二日目・三日目は長野でスキーをしました。もちろんほとんどの人がスキー初挑戦だったので、インストラクターの方々に基礎から教えていただきました。何度も何度も転びながらも楽しくスキーを教わりました。のみこみの早い加治木高校生は、みるみる上達し、少し練習しただけでまるで別人のように軽やかに滑っていました。

ホテルでは、たっぷり時間があったので、普段では考えられないほどのんびり過ごしました。また、夜にはふたご座流星群が見え、ベランダに出てみんなで感動しながらみました。

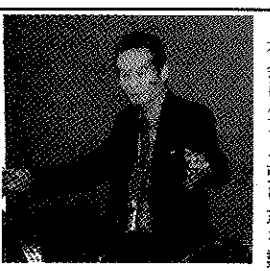
最終日は浅草の「雷門」を見たり、お台場でショッピングをしたりしました。浅草では、おみくじを引く人、お土産を買う人、ぶらぶら散策する人など、みんなそれぞれに楽しんでいました。お台場では、あまり自由時間がなく少し残念でしたが、それでも十分楽しめました。

修学旅行では、普段あまり話さない人とも話す機会があり、友達もさらに増えました。あっという間でしたが、充実した４日間を過ごすことができ、とても良い思い出となりました。

（担当　切原健人）



ようこそ先輩 ＝龍門講座＝

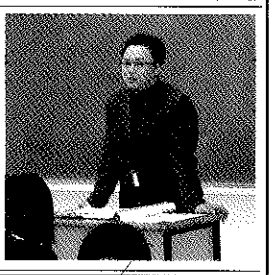


十二月十六日、加治木高校出身の講師たちが、一年生に母校に対する深い思いと社会に生きる強い志を熱く語った。毎年恒例の「龍門講座」である。各クラスに一名ずつ、様々な職業に就く先輩方が招かれた。「社会」という外の世界をまだ知らない一年生たちにとって、先輩方の話はとても参考になり、自分たちの未来を考えるよい機会となった。前々からこの講座を楽しみにしていた生徒たちも多く、黒板に歓迎の言葉を飾るクラスもあった。

講師として来られた先輩方の中には、県外や海外から駆けつけてくださった方もおられて、話の内容は、現在の日本の深刻な問題から、私たち人間の身体について、商業関係の話、戦争中の加治木高校のことなど、幅広いジャンルが取り上げられた。生徒たちはその講話に真剣に耳を傾けて、時には笑い、拍手も起きた。講話の内容は様々であったが、どの先輩も、「加治木高校は素晴らしい学校だ。」「加治木高校の生徒であることを、十分誇りに思ってほしい。」と、生徒たちに熱く語ってくださった。生徒たちの中には、「仕事をこれからも頑張ってほしい。」「将来に興味が沸いた。最終的に自分で自分の道をしっかり決めようと思う。」など心を動かされて考えが大きく変わった者もいたようだ。この講座で、私たちが先輩方からいただいたものは少なくはないはずだ。

毎年、加治木高校の卒業生たちが、無限の可能性を秘めた未来へ羽ばたいていく。その中には、この「龍門講座」を糧にした者もいるだろう。そして、立派な大人となり、社会に貢献し、また加治木高校一年生のために、壇上に上がる人が出てくるに違いない。

（担当　清藤隆広）



学級	講師紹介	卒年	講座の題
1-1	堀中清美	23	母校消失あれから65年
1-2	有川真由美	59	外から見た日本 ～おもに台湾を中心に
1-3	松崎勉	53	頭頸部癌について
1-4	久保田龍二	54	九州に多いウィルス ：ＨＴＬＶ
1-5	用貝敏郎	50	気象庁予報官の一日
1-6	牧野田勝志	54	家畜保健衛生所の業務
1-7	佃三喜男	42	これからの世の中で必要なこと
1-8	浜本麦	平13	「好きなこと」を仕事にすること

蔵王だけ？草

漫画「タイガーマスク」の主人公「伊達直人」を名乗る人物から、児童養護施設などに寄付が贈られる…通称「タイガーマスク運動」が全国で相次いで報告されている。

昨年十二月二十五日、群馬県中央児童相談所へ、ランドセル十個が「伊達直人」を名乗る人物から寄贈された。

この件がニュース等で報道されると、それに続くようにして同じような寄付行為が各地で報告されるようになる。二〇一一年一月十五日の時点で確認された寄付行為の件数は一千件を超え、今では「タイガーマスク現象」と言われるほどに全国で連鎖的な広がりを見せている。寄贈品はランドセルに限らず、筆記用具や玩具、食品、現金など様々であり、「未来ある子ども達のために使ってください」「新一年生のかがやかしい未来を祈ります」といったような子供たちを想うメッセージが添えられているものも多い。

ちなみに、漫画「タイガーマスク」のストーリーは、孤児院で育った伊達直人が覆面レスラーとなり、稼いだファイトマネーを孤児院に寄付していくというものだ。

経済不況や心の痛む二件の事件が話題になることが少なくない中、このタイガーマスク運動を聞いて心が和んだ方も多いのではないだろうか。

この運動がここまで広がっていった要因には、「日本の子供たちに匿名でランドセルを贈る」というのメリットである。

この運動の特徴に、「伊達直人」を名乗る、つまり匿名で寄付をするという点があるが、これによって寄付行為の敷居が下がり手軽になったのではないか。日本で表立って名前を出し寄付を行うというのは企業や著名人なら始めた人のアイディアがあってこそだが、それを見て「続けよう」「マネしてみよう」と行動に移した人々の存在は大きい。暗い話題にうつむくだけではなく、自らが行動を起こし、少しでも日本を明るくしていこうという試みは、見ている人を勇気づけてくれるものがある。

（担当　永田彩花）

加高生の進路研究

助産師

助産師とは、出産に備えて妊婦さんや産婦さんの心と身体の準備をしたり、ケアの手助けをする仕事です。この職業は、女性しか就くことができませんが、とても魅力的な仕事です。

助産師になるには、まず国家資格を取得しなければなりません。現在では、看護大学在籍中に助産師科目を選択・履修すれば、卒業時には助産師試験の受験資格が得られるようになりました。受験資格取得後、助産師国家試験に合格すると、助産師の免許を取得し、晴れて助産師となります。

仕事の内容について、多くの人は出産に立ち会うことだけが助産師の仕事と思いがちですが、それだけでなく、女性の一生涯にわたる性と生殖に関する指導・援助全般という、とても広い範囲にわたるものです。

数は多くありませんが、病院だけでなく、市町村の保健センターや保健所にも助産師がいますし、助産師は看護職のなかでも、助産に関わる業務や応急手当などに関しては、唯一、自分の判断で、医療行為ができるので、自分で助産院を開業する人もいます。また、助産師は少しずつ注目を集めている職業の一つですが、離島などでは産婦人科を置く病院が減る中、現状を食い止めようと活動されている方もいます。

出産という大切な時を産婦と一緒にすごし、命の大切さを最も身近に感じることができるこの職業に是非興味・関心を持ってもらいたいです。同時に、少子化や産婦人科病院の減少などが深刻な問題となっているということも知っていただきたいです。

（担当　福岡杏樹）

獣医師

一、獣医師とは

獣医師と聞いて連想するのが、主に家庭で飼われている犬や猫をはじめ、様々な飼育動物の診療を専門に行う職業だということですが、獣医師にも様々な仕事があり、ペット診療を行うだけが全てではありません。産業動物臨床獣医師と呼ばれる獣医師は、農業共済組合または農業協同組合等に勤務し、周辺の畜産農家に往診し、牛や豚、鶏などの畜産動物を対象としてワクチン摂取及び消毒など、伝染病の診療、予防の衛生指導といった予防衛生業務を行います。その他、地方公務員や国家公務員として働く獣医師もいます。

二、獣医師になるには

獣医師になるには、獣医学を学べる大学に入学し、獣医師にとって必要な基礎、応用そして臨床に関する多様な科目を六年間の課程で修める必要があります。現在獣医学教育を受けられる大学は全国で十六校あり、そこでは獣医学の基礎となる解剖学・薬理学・生物学から始まり、応用的分野である公衆衛生学・感染症学・病理学、そして臨床分野である内科学・外科学・繁殖学などを学びます。これらは講義だけではなく、動物や細胞、病原体等を自分の手で実際に取り扱う実習を通してワクチン摂取及び消毒など、伝染病の診療、予防の衛生指導といった予防衛生業務を行います。その他、地方公務員や国家公務員として働く獣医師もいます。

二、獣医師になるには

獣医師になるには、獣医学を学べる大学に入学し、獣医師にとって必要な基礎、応用そして臨床に関する多様な科目を六年間の課程で修める必要があります。現在獣医学教育を受けられる大学は全国で十六校あり、そこでは獣医学の基礎となる解剖学・薬理学・生物学から始まり、応用的分野である公衆衛生学・感染症学・病理学、そして臨床分野である内科学・外科学・繁殖学などを学びます。これらは講義だけではなく、動物や細胞、病原体等を自分の手で実際に取り扱う実習を通して多くのことを学びます。そして大学卒業後、農林水産省が一年に一度行う獣医師国家試験を受験し、合格して晴れて獣医師になることができます。しかし、診療をするのは現場で多くのことを経験し、一人前になってからだそうです。

三、さいごに

一般に知られている仕事の他にも、様々な仕事があることを知りました。今回の職業調べを生かして将来についてもっと真剣に考えようと思いました。

（担当　米丸麻未）

加治木の歴史 シリーズ第九弾 ～加治木出身の偉人～

加治木出身の偉人の中でも特に有名なのが椋鳩十だ。彼はその優れた才能から数々の文学作品を生み出してきた。その中でも「大造じいさんとガン」という物語は小学生の教科書にも載るほどの作品である。加治木町にも記念館があり、今では「椋鳩十」という名前は日本中で知られている。

椋鳩十は、本名を久保田彦穂といい、一九〇五年、十月二十二日に長野県の喬木村で誕生した。長野の高校を卒業し、東京の大学に入学する。在学中に詩集「駿馬」を発表するが、「椋鳩十」というペンネームは使っていなかった。やがて彼は大学卒業後、加治木を訪れ、町立の実科高等女学校（後の加治木高等女学校、加治木高校の前身）の国語教師となった。仕事をしながら作家活動を続け、一九三三年に「椋鳩十」としての初めての作品「山窩調」を発表する。加治木は、「椋鳩十」として新たな道を歩み始めた彼の「故郷」と言える。

一九四七年鹿児島県立図書館の館長になった彼は、様々な作品を発表しながらも図書館の無い地域に本を寄贈したり、図書館の本を地域に貸し出すなどして、誰もが本を読めるように努めた。地方との連携を目指したこの新しい運営方法は「鹿児島方式」と呼ばれ、後の図書館活動に大きな影響を与えた。

また奄美大島に「奄美分館」（島尾敏雄初代館長）を設置したり、「母と子の20分間読書」運動を推進し、全国的な運動に展開させたりした。さらに彼は小中学校や高校に校歌の歌詞の提供もしており、今もなお歌われ続けている。

このように、創作活動だけでなく、文学に関わる様々な面で功績を挙げた椋鳩十は、一九八七年に八十二歳でこの世を去った。

彼が生涯で手掛けた作品は百以上もあり、受賞作も多い。動物と人間の心温まる交流や生き物の命の尊さ、たくましさを描いた彼の作品は、今でも多くの人に読まれ続けている。

最後に、受賞作となった主な作品を紹介しよう。

- 『片耳の大鹿』
- 『大空に生きる』
- 『孤島の野犬』
- 『マヤの一生』
- 『大蔵じいさんとガン』
- 『椋鳩十全集』

これからも椋鳩十の作品を多くの人に楽しんでもらいたいと思う。

（担当　二渡良昭）

緊急！ 新燃岳噴火!!

昨年、桜島は年間の噴火回数が観測史上最多の８９６回を記録しました。桜島は、姶良カルデラの一端にある成層火山で、北岳、中岳、南岳の三峰と、権現山、鍋山、引ノ平などの側火山からなっています。桜島の爆発は現在、南岳の山腹の昭和火口でおこっています。

また、霧島連山の一部の新燃岳が、一月十九日に52年ぶりに噴火しました。これまで（２月６日現在まで）の噴火で、溶岩ドームの出現、火口付近で火山雷の発生などの現象や、周辺地域に、噴石や降灰、空振、小規模な山火事などの被害が発生しています。そのため、車の通行止めや、飛行機の欠航、ＪＲの運転見合わせ、農作物への被害、窓ガラスや建物の破損などがおこっています。そのほかにも、観光業界や景観の面にも大きな影響が出ています。

桜島は、大正３年（１９１４年）の１月12日に大規模な爆発があり、桜島と大隅半島が溶岩によって陸続きとなりました。このときの犠牲者は、死者35人、行方不明者23人で噴煙は上空８０００km に達し、広範囲に灰を降らせました。

現在、鹿児島県では、桜島の噴火を予測した防災訓練を桜島周辺地域や、県の陸上自衛隊や消防署が行っています。

火山の噴火でおこる被害は、降灰、空振、火砕流、地震などです。特に降灰は、噴火の度におこります。現在、宮崎県でも、新燃岳の噴火による降灰で、交通への影響、降り積もった灰の処理の苦労等があります。火山灰は細かいので、吸い込むと、呼吸器官にも害を及ぼします。また、火山灰は普通の砂とは違い、中に多数の空洞があり、水をとても吸収しやすいので降り積もった灰に雨がかかることによって、重さが２～３倍になるので、建物の屋根がつぶれたり、処理が大変困難になります。

空振は、火山の噴火に伴って発生する空気の振動です。火山が爆発的な噴火を起こすとき、火口の気圧が急激に変化し、空気の振動が発生し衝撃波となって空気中を伝わっていきます。これにより、窓ガラスが割れるなどの被害がおこります。空振による窓ガラスの飛散の予防としては、窓ガラスにガムテープを貼るのがよいとされています。

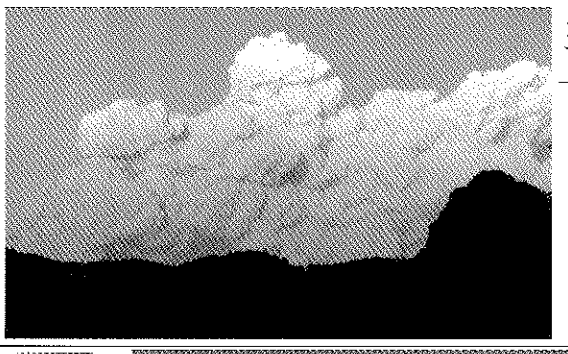
火砕流は、火山現象で生じる熱風と固体粒子の混合物で、空気より重いため、火山の斜面に沿って、時速１００km 以上で進みます。新燃岳の噴火による火砕流の被害は、３km に及ぶと推測されています。

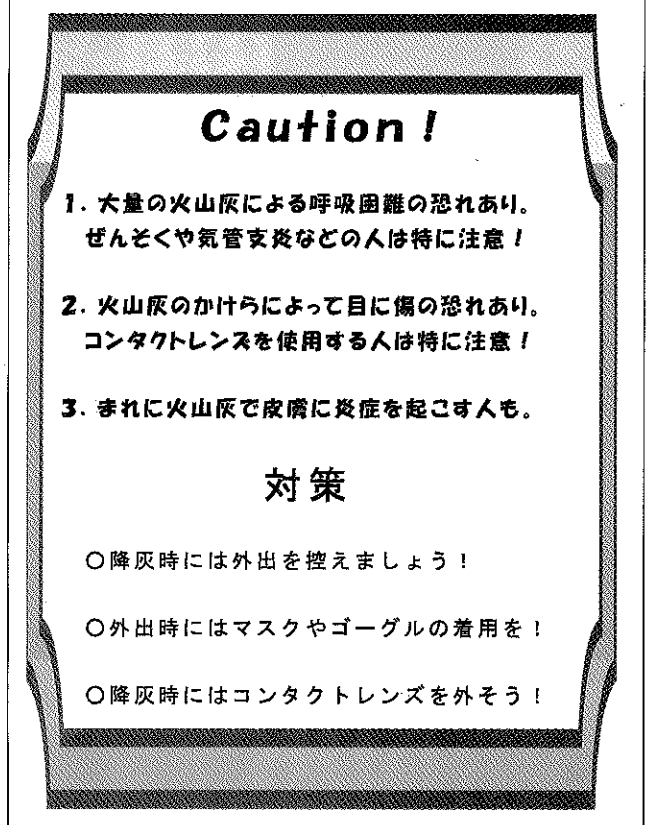
地震は、火山の爆発的な噴火によりおこります。桜島の大噴火の際にも大きな地震がおき、鹿児島市でも、建物の倒壊や火災がおこりました。

鹿児島県には、桜島や新燃岳以外にも、硫黄島などの活火山があり、私達の身の周りには、多くの火山が存在しています。これからは火山の情報に注意して生活しましょう。

（参考　鹿児島県気象庁・wiki）

（担当　宮内志朗）





「火山灰の健康影響について（県民の皆様へ）」チラシより

～1945年8月1日"加治木空襲"を考える～ 一年生合同ＬＨＲ

昨年末の12月6日、旧制加治木中を卒業された我々の大先輩が、本校一年生３２５名に、加治木空襲についての講話をしてくださった。

ところで、本校が空襲にあい、校舎が焼失したことをどれくらいの人が知っているだろうか。また、聞いたことはあっても、詳しくは知らない人も多いのではないだろうか。

「加治木空襲」とは、加治木町が終戦間際の１９４５年８月11日に、アメリカ軍による大規模な爆撃を受けたことをいう。このとき、アメリカ軍は低空飛行でナパーム弾や焼夷弾を落とし、加治木町は火の海と化し、その煙は上空１２００メートルまで昇ったという。この空襲で校舎はほぼ焼失し、十五人の生徒が亡くなった。

当時旧制加治木中四年生だった新名正治さんの手記によると、この時の爆弾は雷のような音で凄まじい爆風を起こしたという。

そして、逃げる途中に、飛行機から機銃を構えているアメリカ兵の顔も見えたそうだ。それぐらいの至近距離からの空襲がどんなものだったか、想像できるだろうか。

資料によると、当初米軍はオリンピック作戦（南九州上陸作戦）に基づき激しい地上戦になると予想していたが、日本がポツダム宣言を受諾して大惨事は避けられたという。ひょっとしたら、加治木町もさらに最悪な事態になっていたかもしれない。つくづく戦争の怖さが分かった気がした。

話を講話に戻そう。今回は、さいたま市から当時旧制加治木中一年生だった今吉孝夫さんが講話をしに来て下さった。話によると、なぜ終戦間際に加治木が空襲の標的にされたのか、どうしても知りたくて、渡米されたそうだ。ようやく発見された資料でわかったのが「オリンピック作戦」なのだ。時折、お話の途中に涙を流された。それぐらい戦争は後々まで深い傷を残すのだと思った。

講話の後、このＬＨＲに参加されていた他の卒業生が、当時描かれた空襲の絵を見せてくださった。日本の飛行機とアメリカの飛行機が錦江湾上空で戦っている絵や、中にはアメリカ兵を捕らえて、刀を持って尋問をしている絵もあった。日本史の授業でもこういった絵は見たが、生で見たのは初めてだった。

そういえば、校門近くに戦時中の弾薬庫跡がある。随分古びて苔むしているが、当時の面影が残っている。一度近くで見てほしい。また、加治木高校のシンボルとなっている大楠は、加治木空襲の戦火を受けて一部が燃えたが現在も青々とした葉を茂らせている。この大楠、悲惨な戦争を乗り越えて生きる加治木高校の大先輩と言えそうだ。

（担当　下中駿太郎）

校門横弾薬庫跡

青春プレイバック ～川良いたり先生の巻～

今回の青春プレイバックは、本校の卒業生でもある家庭科担当の川良いたり先生にインタビューをしてきました。

Ｑ　先生になろうと思った理由をきかせてください。

Ａ　私の時代は、四年制大学を卒業した女子の就職口が無く、就ける仕事は看護士か教師しか思いつかなかったからです。

Ｑ　高校時代のとき、"先生"とはどういうものでしたか？

Ａ　とにかく嫌いだったし、別世界のものだと思っていました。その時代は年寄りの先生が多かったからか、生徒を一回も見ずに授業をして、教室から帰る先生もいました。

Ｑ　自分が先生になったとき、自分が抱いていた先生像と違ったことはありませんでしたか？

Ａ　ひたすら忙しい！授業以外の仕事が大変です。

Ｑ　昔の高校生と今の高校生の違いはどんなことですか？

Ａ　「おこちゃま」になっていることです。依存心が強くて、してもらうことが当たり前になっている気がします。

Ｑ　あっ、そうですか…次の質問です。高校生のとき、一番楽しかった思い出はなんですか？

Ａ　クラスマッチのバスケットボールで優勝したことです。朝補習の前に練習したおかげか、三年生に二度勝ちました。

Ｑ　一番好きだった教科と一番嫌いだった教科を教えてください。

Ａ　一番好きだったのは日本史です。偉人達のつながりなんかを考えると不思議で面白いと思います。逆に、英語は小テストで毎日放課後に残されて大嫌いになりました。

Ｑ　高校時代での失敗談を教えてください。

Ａ　たくさんあってどれを話したら良いか迷う…。宿題を出さなくて、先生に何時でもいいから持ってこいと言われ、夜の九時に先生の家に持って行ったことですね。

Ｑ　今まで高校時代を振り返っていただきましたが、それらをふまえて今の高校生に伝えたいことはどんなことですか？

Ａ　やりたいことはやれ！自分でやりたいことを達成するために何をすればいいか調べなさい。あと倒れるぐらい勉強しろ！自分でやったことしか身につかないし、大学のためだけじゃなく、生きていくためにも役に立つと思います。

◇インタビューを受けてくださっているとき、懐かしい高校時代を昨日のように楽しく話してくださったのがとても印象に残りました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

（担当　谷山浩彬）

編集後記

加高新聞第152号です。前回の発行から七ヶ月が経ちましたが、その間には様々な出来事がありました。記事にも取り上げましたが、特に新燃岳の突然の噴火には驚かされました。都城市などが大きな被害を受けていますが、本校も比較的近い位置にあるため人ごとではありません。大相撲の問題でも日本国中に衝撃が走りました。

暗い話題がある中、部活動生の大活躍や、本校職員のいぶすき菜の花マラソンでの優勝は、生徒・職員に勇気を与えてくれました。また、加治木空襲についての合同ＬＨＲでは、戦争を経験なさった大先輩から、忘れてはならない大事なことを学びました。龍門講座においても、本校の先輩達の熱いメッセージをいただき、自分の将来について本気で考える良い機会となりました。

次々と新しいものが作られ、消えていく、目まぐるしい世の中ですが、本当に大切なものは何なのか、真剣に考えることができました。来年度は本校創立114年目を迎えます。伝統を大切にしながら新たなことにも挑戦し、記事としてこの紙面に残せていったらと思います。

新聞委員会
一―一　下中駿太郎
一―二　二渡　良昭
一―三　長　優花
一―四　米丸　麻未
一―五　池田　奈央
一―六　清藤　隆広
一―七　宮内　志朗
一―八　恒見　晴香
二―一　永田　彩花
二―二　谷山　浩彬
二―三　諏訪脇智美
二―四　福岡　杏樹
二―五　上之原綾香
二―六　切原　健人
二―七　森井　広圭
二―八　矢崎真太郎